

令和3年度第1回秋田県青少年健全育成審議会
会議録

日時 令和3年10月8日（金）午前10時00分～午前11時10分
場所 秋田地方総合庁舎 総603会議室

1 出席者

○ 秋田県青少年健全育成審議会委員（敬称略、五十音順）12名

東 湖 都	秋田県BBS連盟 会員
笈 川 正 典	秋田弁護士会
岡 部 英 洋	秋田少年鑑別所長
金 田 早 苗	学校法人聖霊学園 理事
熊 谷 隆 益	公益社団法人青少年育成秋田県民会議 会長
熊 谷 嘉 隆	国際教養大学 副学長
後 藤 武 之	秋田県高等学校長協会 秋田県立秋田明德館高等学校長
高 杉 奈穂子	秋田県PTA連合会
土 田 いづみ	公募委員
長 門 里 香	秋田県小学校長会 秋田市立豊岩小学校長
濱 田 純	秋田大学客員教授

○ 事務局

あきた未来創造部長	小 野 正 則
次世代・女性活躍支援課長	六 澤 恵理子
次世代・女性活躍支援課政策監	新 号 和 政
同課主幹（兼）班長	佐 藤 修
同課副主幹	鈴 木 矩 秀
同課主任	吉 田 朋 史
同課主事	高 橋 美 咲

進 行	内 容
事 務 局	1 開会
事 務 局	2 あきた未来創造部長 あいさつ
事 務 局	3 委員・事務局の紹介（名簿の読み上げにより紹介）
事 務 局	4 環境浄化部会委員指名
事 務 局	<p>それでは、次第（４）環境浄化部会委員の指名に入ります。ここからの進行は、会長にお任せしたいと思いますのでよろしくお願いします。</p>
会 長	<p>お忙しいところご参集くださり、ありがとうございます。先ほど小野部長からもお話がありましたが、新型コロナウイルス感染症の影響がここまで長引くとは、誰も考えていなかったと思います。学校現場でも、去年の４月から試行錯誤しながら様々な取組を行い、その過程でいろいろな混乱も生じました。一方、子どもたちも、慣れないオンライン教育で戸惑ったと思いますし、何よりも戸惑ったのは学校の教員たちではなかったかと思います。オンライン教育の可能性や課題が見えてきて、我々研究者も教育、研究、国際学会など、今までとは明らかに違う方式の中にいることを日々、痛感しております。</p> <p>あと、オンライン教育についてですが、本学の学生も家庭でずっと講義を受けていて、子どもたちのストレスもさることながら、一緒に住んでいる家族のストレスについても多数、報告されています。企業経済においてもコロナ禍で業績が大きく伸びた業界がある一方、大変な思いをされている業界もあります。いずれにしても、我々は激動の大転換のただ中にいるのは間違いないです。ただ、その中でも、秋田のこれからを担う青少年をどういう風にしっかり育成していくのかということについては我々、大人の責任であると思います。そのことを話し合う大事な審議会ですので、皆様、よろしくお願いします。</p> <p>それでは次第の（４）環境浄化部会委員の指名についてです。人事異動により、この審議会には新たに２名の委員を任命しており、それぞれの前任者には環境浄化部会委員を務めていただいておりますので、岡部</p>

委 員	委員そして藤島委員に部会委員をお引き受けいただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。なお、藤島委員は本日欠席されていますが、就任についてはあらかじめ承諾を得ております。皆様よろしいですか。
会 長	(異議なしの声あり)
会 長	それでは承認されましたので、条例第 2 3 条の 2 第 2 項の規定により、2 名の方を環境浄化部会の委員として指名いたします。よろしくお願いいたします。なお、同部会の委員数は、部会長の濱田委員、部会長代理の石川委員をはじめ合計11名となります。
5 審議	
会 長	次に、次第（5）議題に入ります。本日の議題は「① 第2次あきた子ども・若者プランの取組状況等について」及び「② 第3次あきた子ども・若者プランの関連施策について」です。事務局から説明をお願いします。
事 務 局	(資料4、資料5、資料6、資料7の読み上げにより説明)
会 長	ありがとうございました。それではまず、第2次秋田子ども・若者プランの取組状況についてコメント等をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。
濱田委員	資料4の乳幼児期の④合計特殊出生率について、目標値が1.52と設定されております。これは現実的な数字なのだろうかと、ずっと思っていたのですが、希望的に設定したのか、あるいはここで食い止めるんだという狙いがあるのか、その考え方について教えてください。
課 長	合計特殊出生率は、一人の女性が一生涯に産む子供の数を算出した指標であり、2.07以上ないと人口は増えないものとされています。1.52でも人口の維持には十分ではない数字だと思いますが、若年女性の減少や未婚化・晩婚化といった現状を見ますと、なかなか急には増えていく状況にはない中で、高い目標を設定したものです。

課 長	<p>濱田委員、よろしいですか。他にはどうでしょうか。それでは、第3次あきた子ども・若者プラン関連施策について、質問やコメントがあったらお願いします。このプランの策定に関しましては、昨年度、作業部会を立ち上げて、委員の皆様実に熱心に議論していただきました。それがかなり反映されたものになっており、今年度から実施していくわけです。濱田委員、お願いします。</p>
濱田委員	<p>先ほど、学校教育におけるICT活用状況について説明がありましたが、これについてお聞きします。端末の配布が前倒しされたことによって各学校、特に秋田県は小・中学校や高等学校そして特別支援学校まで、本当によく実施されていると思いますが、資料7の「課題」の欄に書かれているとおり、教職員の研修が今後の大きな課題だと思います。私の聞いたところによると、また聞き研修といいますか、直接研修を受けるのではなく、各学校の代表が研修を受けてきて、それをまた各学校内で行う研修が多いように見受けられます。全ての教員が直接研修を受ける市町村もあるようですが、その辺りの見通しについてお伺いしたいです。</p> <p>もう一点は、何よりもまず、児童生徒たちがこれをフルに活用できるような環境を整えることが大事だと思いますが、現状では、学校の保管庫に入れて充電しながら必要な時にだけそこから出して配布するところが多い。そういう現状ではないかと、私は推察しております。もっとも、家庭に端末を持って帰らせるようにすると、家庭におけるwi-fi環境をどう確保するかということや、パスワードがみんな同じですから、先日、名古屋で発生したような「なりすまし」によるいじめの心配もあります。この点についてお話しください。</p>
会 長	<p>資料6の中にも関連事業の記載がありますので、これらをまとめてご指摘いただいたものと理解しています。学校の教員研修に関しましては、昨年のプラン策定部会においても様々な意見が出ましたし、学生たちの利用についても、ポストコロナにおいても活用し続けていくべきものと思います。いきなり全てを端末で実施するのは無理だとは思いますが、現状を整理した上で展望をお話しください。</p>
教育庁 総務課	<p>ご質問1点目の研修に関しては、各教員がGIGAスクール構想の趣旨を理解し、ICTの活用について前向きに研修を受けていくことが大切だと考えます。総合教育センターを中心に、定期的に研修講座を開催</p>

していますが、各校のＩＣＴ活用推進リーダー等がこうした研修に参加し、その内容を校内で共有するのが一般的な流れになっています。総合教育センターでは、以前よりＩＣＴに関する講座を増やしていますが、今後もその充実を図っていきたいと考えています。

ご質問２点目の 端末活用に関しては、発達段階によって状況が全く違い、特に小学校の１年生は保管庫から取り出して起動し、シャットダウンするなど、まずは使い方に慣れるところからスタートしています。それに比べて、中高生は、もちろん使い方には慣れています。端末の家庭への持ち帰りとなると、wi-fi環境が整っていない家庭への対応やルール作り等が必要となってきます。文部科学省の調査では、多くの市町村が今後端末持ち帰りのルール作りに取り組むと回答していますが、この調査は７月末時点のもので、現在はさらに進んでいるものと思われま

す。最後に、「なりすまし」は、いじめにも発展するような重要な課題であると考えています。各市町村でアカウント等を管理していますが、自分のパスワード管理等を含めたルール作りや指導の徹底を一層推し進めていかなければならないと考えています。

会 長

濱田委員、よろしいですか。突然の指名になりますが、後藤委員及び長門委員から現場の状況をご報告いただきたいのですが、どうでしょうか。後藤委員からお願いします。

後藤委員

ＩＣＴの活用については、高校生の場合、違和感なく使いこなしており、順応が早いです。ただ、いろいろご指摘があるように、教員の対応が追いついていない部分があります。教職員に対する研修は、本校でも５回実施していますが、研修内容そのものよりも、端末の活用に対する各教員の意識をいかにして高めるかということが課題であると考えています。活用に積極的な教員がいる一方で、億劫に感じている教員も見受けられていて、全ての教員が積極的な活用を目指せるよう、その意識を高めていきたいと思っていますところ

です。各学校での状況には差があると思いますが、本校ではオンライン授業の実施にまでは至っていません。タブレットを利用して始業式や終業式を行ったり、タブレット端末を活用していろんな情報を調べたり、行事の動画を録画して配信するといったようなことは実施しています。電子黒板については、大半の教員が積極的に授業で活用しています。

会 長

ありがとうございます。長門委員、いかがでしょうか。

長門委員

小学校の場合は、半年前まで幼稚園児や保育園児だった子どもにも1台ずつ端末が配られています。ようやく学校生活に慣れてきた児童と小学校6年生とでは、やはり発達の段階にかなり差があるので、小・中・高校のうち、小学校が一番対応に苦慮すると感じています。先ほど、教育庁から「ルールづくり」についてお話がありましたけれども、端末の配布とルールづくりが同時にスタートしました。黄色い帽子の小学校1年生を想像してください。充電保管庫から端末を取り出して、コードを外して、どこを持つのか、机のどこに置くのかを教えます。秋田市で配布している端末は、モニターとキーボードが取り外しできるものなので、取り外し方やはめ方を教えます。入力方法も、ローマ字を習うのは3年生なので、1・2年生は五十音の表を出して、そこから文字を入力しますし、アルファベットを含むパスワードを入力して起動させなければならず、教えるのにかなりの時間を要しています。児童の使い方のルールづくりやその理解の徹底、教職員のルールの理解など、あまり欲張らずにスタートしていこうかなと考えています。

そうはいつでも、せっかく配布されたので、利活用と言えるかどうか分かりませんが、端末の使用はしています。低学年だと文字の入力が難しいので、カメラ機能で写真を撮って観察日記のテンプレートにはめたりしていますが、高学年になると文字を入れて修学旅行記録を作れます。成長段階に応じた利活用を進めているところです。

また、例えばこれまで校内にテレビ放送のシステムがなかったとしても、オンラインでの集会やミーティングなども行えるので非常に便利であり、これからの更なる活用が期待できます。

ただ、子どもたちが端末に慣れるためには、まず教員が慣れなければいけません。秋田市の場合は、休校など特別な場合でなければ端末を持ち帰れないことになっていますが、教職員も同様に、持ち帰りはできません。放課後15時半頃に子どもたちを下校させた後、通常業務や消毒の業務などをこなしながら、その合間に端末に慣れるために自主研修を行うのは非常に厳しいことが大きな悩みです。不安を感じることもありますが、便利なものが一人一台配布されているので、期待は大きいです。

会 長

ありがとうございます。非常に貴重な現場の声をいただきました。第一印象としては、まだ始まったばかりで試行錯誤のただ中にあるんだろうというのが、まず一つです。あと、小学校、中学校、高等学校それぞれで状況はかなり違うだろうし、さらに、児童の学年によっても対応が違うことを実感しました。繰り返しますが、ポストコロナでもICTを活用した学びは常態化していくでしょうし、本県の初等・中等教育は非常にレベルが高いのですが、ICTをどう活用どうするかというのは、今後の教育レベルの維持に直接的につながってくるのは間違いないと思います。特に教員に対するきめ細かな研修と、自宅に持ち帰ることはできないことは非常に悩ましいのですが、高等教育の現場では予習・復習にICT端末をフルに活用してますし、データの収集でも活躍しています。その辺りの可能性を見据えながら、どういう風にルールづくりを進めていくのか。それを本県の子どもたちの教育レベルの維持もしくは今後の発展にどういう風につなげていくのか、これはかなり大事なことでと思いますので、教育委員会の皆様におかれましては、引き続き情報収集し、弾力的な対応をされるよう、お願いします。他にありますか。どうぞ。

金田委員

私は私立高校の運営に携わっておりますけれども、新制度のおかげで我々も、公立高校に比べて少し遅れましたけれども、今年度の夏季休業前に、生徒一人一人に端末を配布することができました。それで、新学期からは、探究の時間や生徒自身の学習の記録などへの活用のほか、教員の情報共有に活用して、紙の資料を減らしていこうということで、走りながら試行錯誤している状況です。それぞれの教員には授業での活用に目標設定をして進めていこうと校長は考えているようです。

研修についても様々な話がありましたが、皆が研修に参加できればよいのですが、現場を持っているとなかなか全員が参加することができないことも多いと思います。先進的な活用事例などを広く情報発信していただき、それを共有しながら秋田の子どもたちのレベルアップにつなげていくよう、皆が協力していければいいなと感じました。

それから、不登校の児童生徒が増えています。秋田県は全国平均よりは少ないのですが増えてきているとのことで、不登校の子どもたちがこの端末でリモートで個別に学ぶということを、検討あるいは実践しているでしょうか。

教育庁 義務教育課	<p>I C Tを活用した不登校児童生徒に対する取組についてですが、現時点では、毎日ではなくとも一定の頻度で登校している児童生徒に別室でI C T端末を利用させたり、端末の情報を提供したりというようなことは実施しています。しかし、全く学校に来ることができない児童生徒に対する取組まではあまり至っていない状況です。</p>
金田委員	<p>今お話があったように、不登校の子どもたちも、別室でいいから一緒に授業に参加できるような取組があれば、プラスになっていくのではないかなと感じます。</p>
会 長	<p>ありがとうございました。先ほどもう一人、挙手された方、お願いします。</p>
笈川委員	<p>先ほど、小学校低学年の児童の利用状況について説明がありました。私の子は今、3歳ですが、1歳半の時点でYouTubeの広告をスキップする方法を覚え、数字の勉強をしたら、今では、6桁のパスワードを私が知らない間に覚えて勝手に使うようになってました。やがては小学校に入る段階で、抵抗感なく端末を使用できるようになってくるのではないかと、さらには幼稚園の年長の時に勉強が始まるような時代が近いうちに来るのではないかと、などと思っています。</p> <p>そうはいうものの、直近の課題として低学年の児童の利用については苦労をされているようなので、その辺りのフォローアップが、やがては低学年のスムーズな利用につながっていくのではないかと個人的には感じたりしています。</p> <p>あと一点、質問ですが、端末の利用を開始してまだ半年なので、調査段階だとは思いますが、保護者から先生のI C T機器の活用能力が低すぎて授業が全然進まないとか、ネットのトラブルがあって1時間の授業が無駄になったとか、教員の間で授業レベルの格差があるとか、そのような声があるのかどうか、教えてください。</p>
教育庁 義務教育課	<p>教員のレベルによる差について、今、まだ不慣れな状況でそういったことも起きているのかもしれませんが、トラブルに関して職員間で情報を共有して改善するよう、各市町村の教育委員会に指示していますし、スキルアップに関しても、情報交換しながら進めているところだと思います。</p>

<p>笈川委員</p>	<p>マニュアルではなく、図形や分かりやすい表がついたパワーポイントのスライドなど、教員が活用してその負担を軽減できるデータが文部科学省から各県に配布されていますか。</p>
<p>教育庁 義務教育課</p>	<p>文部科学省はその点にかなり力を入れており、オンラインによる担当者会議の開催、G I G A S t u D X (ギガ スタディーエックス)推進チーム等による情報提供を行っています。情報量が大変多いですが、取捨選択しつつ、各学校にいるリーダーが先頭に立って情報共有を進め、教員のスキルアップを図っていくことができるようにしていきたいと考えています。</p>
<p>会 長</p>	<p>貴重な意見をいただきました。他の自治体でも、不登校の子どもたちがオンラインを活用して家庭で普通に授業を受けられるようになった話は、メディア等を通して私も聞いております。オンラインの可能性を感じますので、現場の状況を踏まえながら、きめ細かく子どもたちにアクセスしてほしいと思います。</p> <p>あと、教員のスキルに相当ばらつきがありますし、1年ぐらい経つと、教材についてもいろんなものが蓄積されてくるでしょうから、それをしっかり共有することを考える時期に来てるのではないかと思います。資料を一から全部作るのは大変でしょうから、やはり教員間の共同作業や、データの共有が今後の鍵になります。</p> <p>あと、研修会に参加する時間についての話がありましたが、それこそオール秋田でオンデマンドやオンラインの研修をしっかりとやることで、時間にストレスなく多くの教員が参加できると思いますので、これも是非検討した上で推進していただきたいと思います。</p> <p>そろそろ時間がなくなりましたので この件についてはこれで議論閉じたいと思います。貴重なご意見、ありがとうございました。</p>
	<p>6 報告等</p>
<p>会 長</p>	<p>次に、次第（6）報告等に入ります。優良図書の推奨・有害図書の指定について、事務局より報告をお願いします。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>（資料9の読み上げにより説明）</p>

会 長	<p>続いて、②有害図書類の指定及び優良図書の推奨に係る変更点について、報告をお願いします。</p>
事 務 局	<p>(資料１０の読み上げにより説明)</p>
会 長	<p>以上、事務局から説明していただきましたが、質問やコメントはありますか。</p>
委 員	<p>(質問なし)</p>
会 長	<p>それでは、了解いただいたものとします。他に何か言い残したこと、あるいは、これだけは触れておきたいということがありましたらお話しください。よろしいですか。それでは、進行を事務局に返します。皆様、ありがとうございました。</p>
事 務 局	<p>事務局から２点、連絡事項があります。１つ目は、この全体会の終了後、休憩をはさんで同じ会場で環境浄化部会を11時5分から開会しますので、環境浄化部会の皆様は定刻に着席をお願いします。２つ目ですが、本日以降、今年度における全体会の開催は、現時点では予定しておりませんが、重要事項の審議案件が生じた場合はご連絡しますのでご承知おきください。</p> <p>連絡事項は以上です。これをもちまして令和３年度秋田県青少年健全育成審議会全体会を終了します。ありがとうございました。</p>